

市川市新庁舎建設基本設計・実施設計業務委託プロポーザル
設計者の特定について

平成26年1月

市 川 市

1 設計者の特定（選考結果）

委託候補者 株式会社 山下設計

委託候補次席者 株式会社 久米設計

2 選考の概要

（1）選考方法

設計者については、公募型プロポーザル方式を採用し、参加資格を満たす者を公募により募集した。

設計者の特定にあたっては、学識経験者等で構成する「市川市新庁舎建設設計者選考委員会（以下「選考委員会」という。）」を設置し、選考委員会による評価を踏まえた一次選考及び二次選考を行った。

（2）応募者

7者

（3）一次選考

一次選考では、応募者から提出された書類により、事務所、配置技術者及び業務実施方針について選考委員会で評価を行った。

この評価を踏まえ、応募者7者の中から、二次選考に進むものとして、6者を選定した。

（4）二次選考

二次選考では、「設計工程及び全体工程」「市民参加の考え方」「設計チームの特徴」「取り組み意欲、基本構想の理解度」のほか、「庁舎空間」「コスト削減」「デザイン・敷地利用」「時代の変化への対応」といった4つのテーマに対する技術提案資料等が、一次選考で選定された6者（A～F社）から提出された。

選考委員会では、技術提案資料等の内容について、公開で実施したプレゼンテーションとヒアリングの結果を踏まえ、総合的に判断した評価を行った。

そして、選考委員会の評価結果を踏まえ、委託候補者及び委託候補次席者を特定した。

3 選考委員会

(1) 委員

委員長 川岸 梅和 日本大学大学院 生産工学研究科 教授
委員 加藤 孝明 東京大学 生産技術研究所
都市基盤安全工学国際研究センター 准教授
委員 前野 一夫 千葉大学大学院 工学研究科 副研究科長
委員 武藤 博己 法政大学大学院 公共政策研究科長
委員 山本 俊哉 明治大学 理工学部建築学科 教授
委員 歌代 素克 市川市自治会連合協議会 相談役
委員 岡本 博美 市川市企画部長
委員 川上 親徳 市川市財政部長

(2) 開催経過

	日時	議題
第1回	平成25年9月18日	・新庁舎建設設計者の応募要領・選考要領について
第2回	平成25年10月16日	・一次選考について ・二次選考の進め方について
第3回	平成25年12月15日	・二次選考の進め方について ・公開プレゼンテーション
第4回	平成25年12月24日	・二次選考について

(3) 講評

選考委員会は、公募型プロポーザル方式による設計者からの提案について、「市川市新庁舎建設基本設計・実施設計業務委託プロポーザル応募要領」及び「同評価選考要領」に基づき、一次選考、二次選考の二段階による厳正な評価を行ったものである。

一次選考では、7者から参加表明があったが、このうち参加要件を満たさなかった1者を除いては、何れも豊富な設計実績を持った技術者を擁する企業であり、設計能力があることが確認された。

また、一次選考では提案や業務への理解に一部不十分な点が見られたが、二次選考の提案が期待されたものであった。

このため、一次選考の結果、6者を選定し、引き続き、技術提案を評価することが妥当という意見となった。

二次選考では、「設計工程及び全体工程」「市民参加の考え方」「設計チームの特徴」「取り組み意欲、基本構想の理解度」のほか、「庁舎空間の考え方」、「コスト削減の考え方」、「デザイン・敷地利用の考え方」、「時代の変化に対応した庁舎の考え方」の4つの特定テーマに対し、市川市の現状を踏まえた提案を求め、公開によるプレゼンテーションとヒアリングを経て評価を行ったものである。

委託候補者（F社）の提案は、すべての特定テーマにおいて最も高く評価された。

特に、提案の全体に渡って、狭い敷地と厳しい建築規制、京成線との隣接、交通環境、緑の多い北側の低層住環境と中心市街地という二面性を持った地域の特異性など、市川市の現状を的確に分析していることが高く評価された。

新第1庁舎については、北側をひな壇状として緑化したデザインが、庁舎規模を確保しながら、同時に、北側の住宅地と京成線からみて非常に象徴的なデザインとなること、また、柱スパンの検討・工夫などによる地下階の削減、既存庁舎の地下躯体を有効活用するとともに、北側には十分な空間を確保して鉄道近接工事を緩和するなど、コストの削減や施工性に対しても実現性が高いこと、さらに、周辺の交通環境を分析して車両動線が提案されていることなどが高く評価されたものである。

また、新第2庁舎については、周辺の公共施設を含めた長期的な視点も取り入れた交通環境の整備が考察された点などを高く評価する意見もあった。

一方で、景観性が評価された新第 1 庁舎北側植栽の維持管理や国道 14 号に面する南側ファサードについて、詳細な検討が必要であることなどが指摘された。

なお、レストランや協働テラス及び市民活動空間のあり方などは、今後の市民ワークショップでの検討を期待したいといった意見があった。

委託候補次席者（C社）の提案については、適正な広さと屋外との連続性をもって構成された「市民ひろば」をはじめとする市民活動空間が、市民活動の見える化による活性化を期待させること、また、ルーバーをうまく組み合わせたファサードデザインのほか、将来における新第 2 庁舎の有効活用が考察されている点が評価された。

一方で、新第 1 庁舎の車両動線、地下に設置された機械室の浸水対策、コミュニケーションボイドを介した情報漏えいなどの懸念も指摘された。

この外の応募者についても、コストや工期の縮減、市民協働空間などについて評価される提案もあったが、現状の分析、あるいは提案の斬新さなどから、相対的に委託候補者及び委託候補次席者を高く評価する意見が多かったものである。

以上、提案に対する評価として、委員の意見を取りまとめてここに報告するものである。

今後は、特定された設計者の設計を基に、市民に親しまれ、機能的で使い続けられる、シンボル性をもったよりよい市庁舎が建設されることを切に願うものである。

市川市新庁舎建設設計者選考委員会
委員長 川岸 梅和